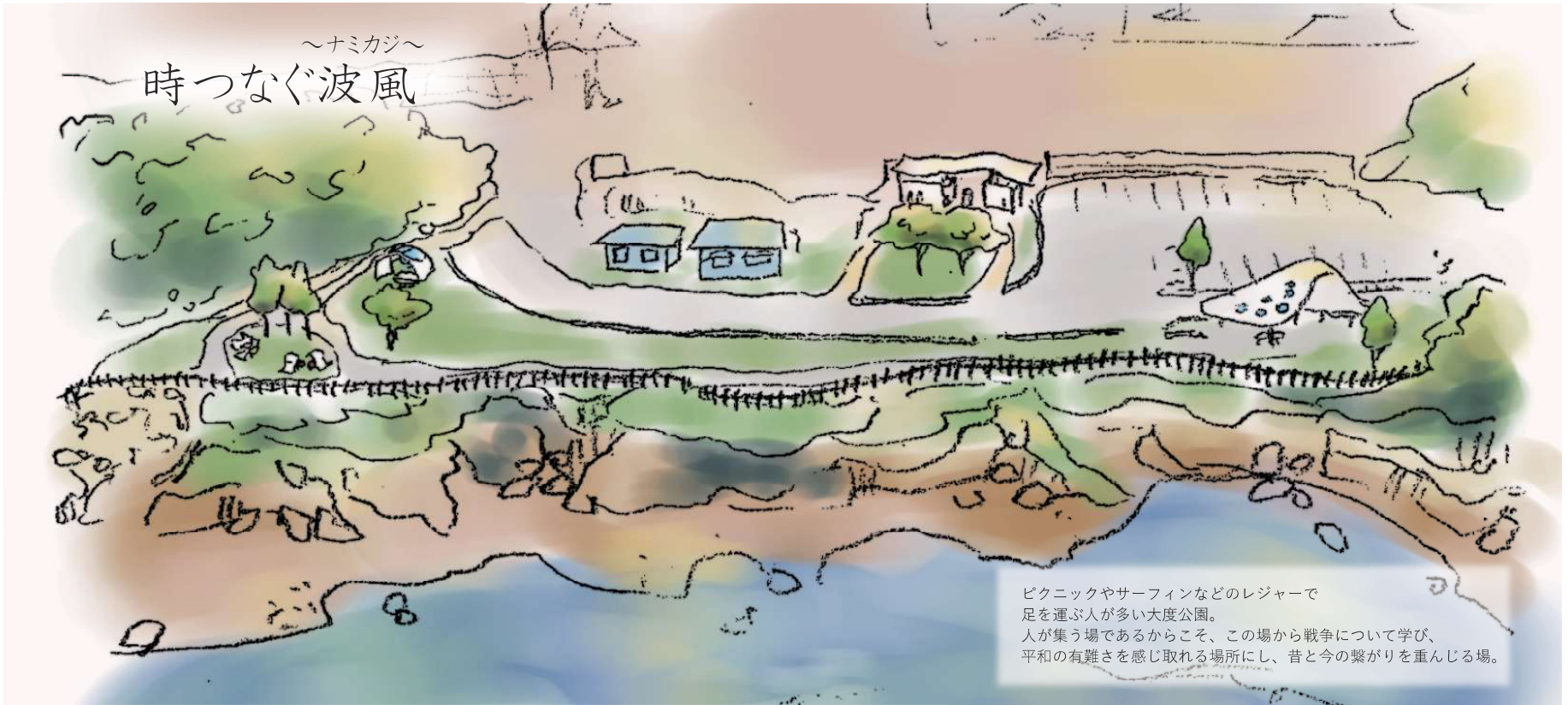
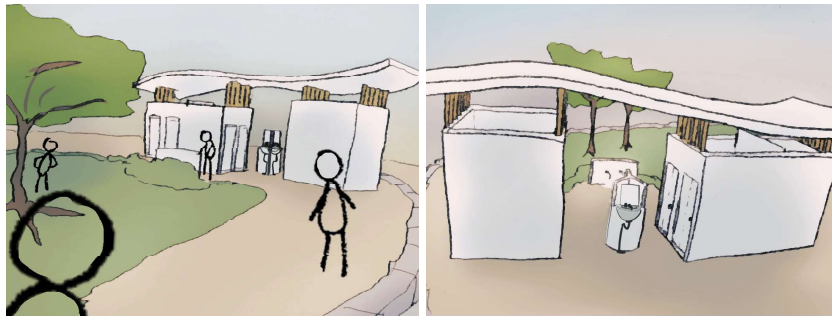


～ナミカジ～
時つなく波風



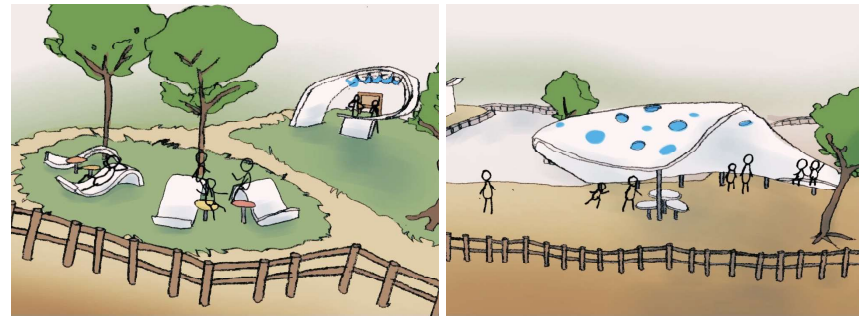
ピクニックやサーフィンなどのレジャーで足を運ぶ人が多い大度公園。この場から戦争について学び、平和の有難さを感じ取れる場所に、昔と今の繋がりを重んじる場。

トイレ・足洗い場

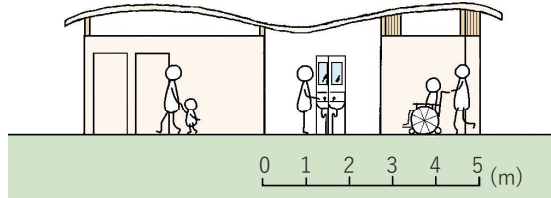
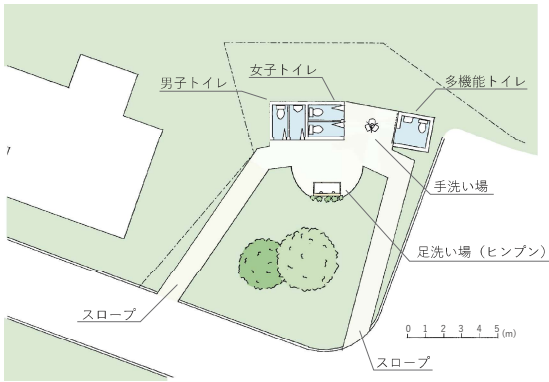


波のカタチをした大屋根が、男女別トイレ・多機能トイレを緩やかに繋ぐ。屋根の下面の仕上げにガラスカレットを使用することで、個室から見上げた時に細かな光の反射がみられる。東西の高窓の位置に木製のルーバーをつけることにより、雨の侵入を防ぎ、かつ、風通しの良い空間になる。壁の塗装は白とし、ガラスカレットの光や周囲の自然（緑）の色が映えるようにする。

休憩所

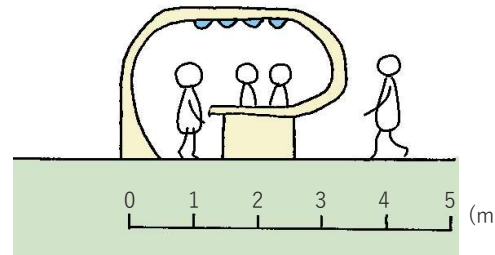
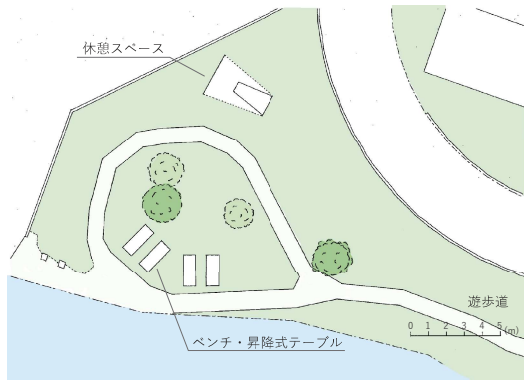


人のアクセスの多い西側に短期的な休憩所（左）を、少ない東側に長期的な休憩所（右）を設けた。
〔短期的休憩スペース〕ふらっと立ち寄りやすい感覚で利用する空間になっていて、海を眺めながら自由に寛ぐ。
〔長期的休憩スペース〕ゆったりと時間を忘れて過ごす空間。壁には沖縄戦についての展示物を掲示し、戦争について学ぶことができる。



トイレ・足洗い場

波や風のカタチの大屋根で二つの建物を覆うことで、男子トイレ・女子トイレ・多機能トイレそれぞれの一体感が生まれ、一つの空間に感じられる。屋根と壁の間に、あきを設けることで、採光や風通し、既存トイレの暗がりの改善につながっていく。広場のように人と人との繋がりが生まれる空間にするため、あえてトイレの建物内に通路を作らず、シンプルなつくりをしている。そうすることで、少し奥まった場所でも犯罪が起こりにくくなる。また広場のシンボルとして、既存のヒンブンを足洗い場に再利用する。男女それぞれで開口の向きを変えて視線を遮り、多機能トイレも車いす利用者の安全性を考慮した向きになっている。

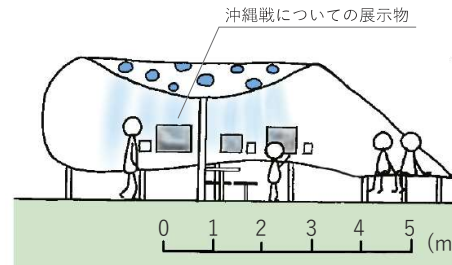
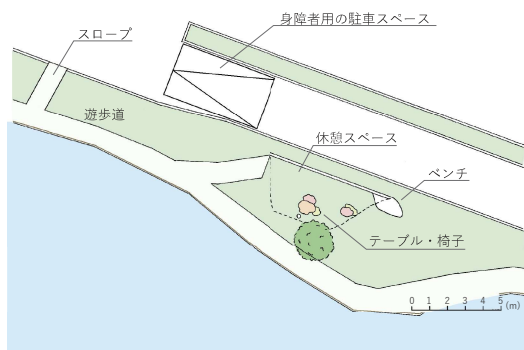


短期的休憩スペース

〔ベンチ〕波と風をイメージしたカタチになっていて、リクライニングチェアのように一人で寝そべったり、のぼり側に腰を掛け二人で休憩したり、二通りの利用方法がある。ベンチの側にあるテーブルが昇降式（回すことで高さの調整が可能なもの）となっており、テーブルと椅子それぞれの使い方ができる。

〔建物〕包みこむ波のイメージした形状。屋根を一部分のみ開口とし、シェードをつけることで、風が吹いたときに波のような揺らめぎを感じることができる。

農道からのアプローチ上、この位置は死角になるため、土地の第一印象となる最初の眺望をすべて見せることができる。



長期的休憩スペース

こちらにも、波に包み込まれるようなカタチになっている。屋根の一部に青の琉球ガラスを、下面の仕上げにガラスカレットを使用し、ほんのりと青い空間で、見上げた時に海中にいるようなきらめきを感じられる。その下には、サンゴ礁のように重なり合うテーブルと椅子があり、ゆったりと過ごす。また、曲線状の壁や屋根を浮かせ、集まるヒトを包むことで、屋根がない周辺の敷地との境界が曖昧になり、自由に休む場所を選べる。そうすることで周辺と空間が溶け合い、新たなコミュニティが生まれる。波のベンチは、座面をあえて奥行600mmにすることで、傾斜のある壁にもたれたり、後ろに手をついたり、のんびりと寛ぎながら過ごすことができる。